



地域おこし協力隊

地域づくり、移住・定住
活動支援担当

森 健太郎
MORI KENTARO

1988年生まれ。福岡県出身。机に座って授業を受ける事に嫌気が差し、中学校卒業後、芸術の道を志す。日本各地で展覧会へ参加、展示企画立ち上げ、スペース立ち上げを経て東御市へとたどり着く。



するために、他所よりも惹かれる「何か」を発信するのが僕の役目です。

地域おこし 協力隊 活動レポート Vol.2

今年度、首都圏から5名が市内に移り住み、地域活動の新たな担い手「地域おこし協力隊」として従事しています。本コーナーでは、地域の活性化のため日々奮闘する隊員の活動をお伝えします。

“文化”を活用する まちが人を呼ぶ

地域おこし協力隊 森 健太郎

地域おこし協力隊の森健太郎です。

僕が今担当しているのは「移住定住支援」です。わざわざ高いお金を出して家を買って移住するのならば、安心して住めて、子どもの教育にも良くて、オシャレで、あわよくば自慢できるまちに住みたい…と、思いますよね。これから移住してきた

「人」の背中を押すために、他所よりも惹かれる「何か」を発信するのが僕の役目です。

去年、「ふじのやまびエンナーレ（静岡県富士市周辺）」というまちおこしのイベントに参加させていただきました。これは、平成の大合併で元気をなくしていた地域を再び盛り上げるために行われたイベントで、その企画の一つに、地域の外から来たアーティストがまちに滞在し、地域の要素をリサーチして作品として発表するというものがありました。

自分のまちへの誇り

そこで私を驚かせたのが、住民の意識の変化です。作品が出来上がっていく過程で住民は、今まで見落としていた地域の魅力に気づき、これを共有することでまちに一体感が醸成されていきました。そして、住民の地域に対する意識が、これまでの諦めから、「自分たちで何とかしたい」という熱意へと変化していくのが感じられました。

東御市の魅力を調査中

東御市でも、自分のまちの誇りに思えるような事をたくさん探していきたいと思っています。そこで現在は、東京芸術大



学の学生と共に、芸術文化の観点から地域の魅力を調査しています。既に2回の調査を終え、市内には地域に残る農業の歴史や、お祭りといった形には残らないけれども誇れるものがたくさんあることが分かってきました。これらの魅力ある地域資源をどのように活用していくのか、地域の皆さんとの検討も始まっていますが、形にはならない人の想いのようなものも含めて、市が誇れるものを外へ発信し、市民のシビックプライドを醸成していきたいと考えています。

火の아트フェスティバルでは、これまでの成果の発表を予定していますので、ぜひご来場ください。